

2022年度第1回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会 議事要旨

- 【日 時】 2022年9月30日（金）午後2時00分～午後3時40分
【場 所】 町田市庁舎2-1会議室
【出席者】 委 員：松波委員（委員長）、奥委員（職務代理）、斉藤崇委員、
森委員、屋委員、斎藤之良委員、土肥委員、齋藤栞帆
委員、山本委員
事 務 局：町田市環境資源部 塩澤
環境政策課 高橋、廣瀬、土志田、井上、西、野地、
島田
コンサルタント：アオイ環境株式会社
【欠席者】 な し
【傍聴者】 な し

議題

1 2022年度外部評価の進行について（報告）

- 事務局から、説明を行った。

質疑なし

2

(1) 2021年度外部評価意見への対応について

- 事務局から、説明を行った。

土 肥 委 員：資源（廃棄物・紙）の項目について、評価意見と対応状況の繋がりがわからなかったので教えて欲しい。

事 務 局：2019年度まで事務局に報告されていなかった廃棄物の処理があり、2020年度から適正な報告をするよう見直したことにより、排出量の数値が増えた。

土 肥 委 員：沢山の項目から1つを見落としていたということか。見落としていた対象年度は。

事 務 局：項目についてはそのとおり。2019年度までずっと見落としていた。

奥 委 員：資源（廃棄物・紙）の項目について、再発防止の対応として指示・周知を行ったとあるが、具体的にどのような再発防止策を行ったか。

事 務 局：今回の報告漏れについては、担当職員の理解が不十分であったことが原因であると考えている。そのため、研修や、環境に関する職員への啓発内容等により、理解不足がないよう周知している。把握漏れが起きないための仕組み作りまではできていない。

奥 委 員：P D C Aサイクルで具体的な解決に繋げるため、どのような指示、周知を行ったかという中身が大切だと思う。報告様式の改善で漏れを防ぐなど、もう少し明確な対応策がほしい。今後、引き続き検討すれば良いかと思う。

土 肥 委 員：まずいなと思ったのが、対応策がプロセスになっていないこと。人の理解に任せているので、代替わりをすると再発してしまう。手順に従っていけば漏れがなくなるといった、実現可能な方法を考えてもらえると良いと思う。

事 務 局：これまでチェックリストが無かったので、対応の第一段階としてチェックリストを作成し、チェック内容の精査を行っていく。また、庁内で部長職を中心に集まる会議があり、これまでは問題の件数報告しかやっていたが、今後、どこが悪かったかを示し、全ての職員の意識が向上するよう改善していく。

土 肥 委 員：苦しめるのが目的ではないので、チェックリストが5000項目になる等で職員を苦しめないように、うまく知恵を絞っていただきたい。

委 員 長：前回の内部環境監査で不適合が指摘されている。そういったものも関係しているので、ミスが発生しないようなプロセスを考えていく必要がある。

土 肥 委 員：環境法令の遵守について、24件の不適合があるとのことだが、適合ができない事情を現場で確認してほしい。また、グリーン購入達成率の対応状況については、前半では、除外するかどうかの判断を個別に行うことが難しいとされつつも、物によっては除外すると書かれており、曖昧である。判断の場合分けをしていただけると良い。

事務局：環境法令の遵守について、全て遵守すべきだと思うが、建物の関係でしようがなくできていないという声は現場から聞いている。だからといってこの状態で良い訳ではないので、すぐ対応できるもの、できないものを現場にヒアリングを行いながら確認し、対応を進めていく。

土肥委員：無理難題かもしれないが、計画を立てて実行するというのも手かと思う。

事務局：グリーン購入達成率の対応状況について、品目を全て確認し、除外することは不可能である。後段では、除外は不可能ということだけで終わりではなく、困った時には相談にはのるということで記載している。1つ1つ除外していくのは不可能という話と、適合品が流通しており、相談は受けるという話があるということで理解してもらいたい。

土肥委員：除外は許可していないものと認識していた。除外は許可している一方、困った時には相談すればその都度判断するといった考え方で良いか。

事務局：実例として、パーテーションが対象になるかどうかといった問い合わせがあった。市として除外としたわけではなく、グリーン購入ネットワークに確認したところ、グリーン購入の対象にならないという判断があった。市として判断できない場合は、外部団体のグリーン購入ネットワークに相談している。市として対象・対象外という判断は行うのは難しいというのが原則としてある。

土肥委員：基準は第三者がもっていて、その基準に従っており、グリーン購入ネットワークでは明確なプロセスや基準、選定理由があるという認識でよいか。

事務局：グリーン購入ネットワークは、法律（グリーン購入法）に基づいて判断している。

(2) 2021年度実績報告について

- 事務局から、説明を行った。

土肥委員：温室効果ガス・エネルギーについて、目標に未達という話だったが、2050年度までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す場合、どこかでリカバーが必要ではないか。その計画は立てているのか。

事務局：今回の配布資料にはないが、町田市第5次環境配慮行動計画において、町田市の施設における温室効果ガスの総排出量を2030年度までに2013年度比で46%削減する目標を立てている。また、小学校の統合時での削減等、建物関係の省エネについて、5つほど計画に盛り込んでいる。計画通りに実施ができれば、2050年度までの温室効果ガスの排出量実質ゼロは見込める数字となっている。

土肥委員：この調子だと目標は達成できる見込みであるという認識で良いか。

事務局：町田市第5次環境配慮行動計画については、次回以降に資料でお示しする。町田市では、2022年1月にゼロカーボンシティ宣言を行った。ゼロカーボンを目指すにあたり、町田市が何をしないといけないかということが町田市第5次環境配慮行動計画に書いてある。今回の評価対象となる町田市第4次環境配慮行動計画については、ゼロカーボンシティ宣言に掲げた目標は評価の対象外。今後、ゼロカーボンに向けて町田市も一事業者として取り組まないといけないと考えている。

土肥委員：今回の外部評価の対象ではないということで了解した。

森委員：資料3の6ページに記載されているのが町田市第5次環境配慮行動計画における目標か。

事務局：そのとおり。計画の切り替え時期のため、わかりにくくなってしまっていて申し訳ない。

奥委員：資源（廃棄物）について、主な増減理由にある市民病院の102tと町田中央公園の79tを足すと、181tにしかならない。残り30tについて、増加理由を知りたい。廃棄物の種類ごとのデータはあるか。また、再利用率について、例年50%前半で推移しているが、この割合でしか再利用できないものなのか、しっかりと組成分析し、再利用の検証を行う余地があるのでは。再利用の循環の輪に乗れば、資源循環が図られるので、最終処分より望ましい。できるだけリデュースした方が良いが、出てしまったものは再利用率を上げていくというところで努力することが必要なのでは。また、グリーン購入達成率について、小中学校はグリーン購入率が高い学校もあれば、低い学校もあり、ばらつきがあるので、グリーン購入率が高い学校を模範として、水平展開して

いく必要があることを昨年度の報告書でまとめたと思う。今回の資料では、学校ごとのデータがないため、そちらもいただきたい。

事務局：資源（廃棄物）及びグリーン購入達成率に関する追加データについて、次回の委員会までに用意し、共有させていただく。

土肥委員：グリーン購入達成率について、「品質優先」は品目を洗ってみた方が良い。どんな品目に対して品質優先としたのか、次に、何が品質未達だったのか、解析する必要があるかと思う。「価格優先」については、グリーン購入の対象であれば高いものを買うべき方針なのか、次回までに教えてほしい。ルール化はしたほうがよい。例えば、予算がひっ迫し、環境部門の了承が出たら非適合でも購入をすることができる、予算が足りない場合は環境政策課で適合品を購入するための予算枠を作るなど。委員に教える必要はないが、考えてみていただけると嬉しい。

事務局：価格と品質を分析することによって、達成率を上げる方法が見えてくると思うので、次回までに品目の分析を行い、データを提示する。

土肥委員：品質優先は品目を見て、価格優先については品目だとわからないかもしれない。わからない場合は、ルール、構造的に寄せるのもありかと思う。

事務局：品質は分析できるかと思う。価格については、予算の話なので、どのような部署が価格優先で買っているか確認し、調べればわかるかもしれない。

委員長：環境法令遵守について、不適合の件数が24件と変わっていない。これは何とかならないか。チェックシートを作成することにより、前年度は大幅に減少したが、本来であればゼロにしないといけない。それが変わらないというのはどういうことか。何らかの方策が必要。かなりの問題を感じる。

事務局：数が減れば良いというわけではなく、本来ゼロであるべきということは、部長含め環境資源部内でも認識している。今後、庁内の意識を環境資源部とあわせ、役所全体として変えていきたい。

土肥委員：意識だと「まあいいや」ということになってしまうので、フロンについては構造に落としてはどうか。残価を捨てるか貸借対照表

に出てくるなど、処理に問題がないかボタンを押してチェックするような構造に、資料にあるリストの上のほうはできると思う。下にある建物関係については、予算をどうするかという問題があると思う。意識よりもルール作りをお願いしたい。

事務局：ルール作りが必要ということでこちらも認識した。各施設の減価償却と耐用年数は環境資源部で管理しておらず、膨大な量のデータを入手・管理ができるか難しいところがあるので、こちらで管理するのか、各職場に徹底するのかは意見を参考にして考えたい。

土肥委員：各部署とコラボして、楽に処理できるよう構造を作ってもらえると嬉しい。

屋委員：世の中デジタル化が進んでいるが、まだまだ紙の使用量が多いと感じる。今回の会議でも紙を使っているが、こういったものを先頭に立ってクリアしていく必要があると思う。アドバイスや今後の計画を知りたい。

事務局：町田市第5次環境配慮行動計画については次回の委員会でご説明するが、紙についてはこの計画で特段目標を定めていない。しかし、ペーパーレスについては、タブレット、ビジネスチャットの活用など、庁内で意識は高まっているように感じている。

連絡事項

- 今後の外部評価委員会の流れについて、事務局から説明した。

以上